

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

利用者調査と
サービス項目を
中心とした評価

東京都福祉サービス第三者評価(2021年度) 評価結果報告書

2021年10月20日

社会福祉法人さつき会
不動さつき保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		
	①	H0702006	
	②	H0702077	
	③	H0902065	
	④	H1001023	
	⑤		
⑥			
福祉サービス種別	認可外保育施設(ベビーホテル等)		
評価対象事業所名称	不動さつき保育園		
利用形態(複数選択可) (該当する形態を選択)	<input checked="" type="checkbox"/> 月極保育 時間預かり(一時預かり)保育		
事業所連絡先	〒	153-0064	
	所在地	東京都目黒区下目黒5-18-4 不動児童館2F	
	Tel	03-6303-0972	
事業所代表者氏名	中村 希美		
契約日	2021年	6月	1日
利用者調査票配布日(実施日)	2021年	6月	16日
利用者調査結果報告日	2021年	7月	22日
自己評価の調査票配布日	2021年	6月	10日
自己評価結果報告日	2021年	7月	22日
訪問調査日	2021年	8月	4日
評価合議日	2021年	8月	4日
コメント (利用者調査・事業評価の 工夫点、補助者・専門家 等の活用、第三者性確保 のための措置などを記入)	・利用者調査では、開始時の書面配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回収率向上にも努めた。なお事業所と協議のうえ、質問には共通項目に加え、独自の項目も設けて調査を実施した。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。		

<p>1</p>	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「ありのままの姿」を受け止め丁寧な言葉かけや援助を行うことで、子どもの様々な要求を満たし生命の保持及び情緒の安定を図る ・一人ひとりの発達過程を慎重に見極め、子どもが主体的に行動していける「待つことのできる保育」を重視する ・明るくのびのびとした生活の中で基本的な生活習慣が身に付く保育を基本とする ・保護者が安心して子どもを預けることのできる保育園の運営に努める ・保育行政に従い、常に緊張感を持ち続けることのできる保育士の育成に努め、地域の一構成員という意識の下、地域との連携を図り地域貢献を積極的に行う
<p>2</p>	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子どものありのままの姿を捉え、子どもに寄り添った関わりや援助が行える人材。（子どもの気持ちを察し、理解できること） ②個々の成長段階に応じた柔軟な保育計画の下、一人ひとりの興味・関心を大事に捉え、広げていける人材。 ③基本的な生活習慣を身に付けられるよう、生活の中での学びを大事に捉えることが出来る人材。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①周りの人への感謝や礼儀を忘れず、努力や協力を惜しまないこと。 ②謙虚さ、素直さを忘れず、あらゆることから学ぼうとする姿勢でいること。 ③それぞれの立場(主任・副主任・保育リーダー・担任・副担任等)の役割を理解し、自分の仕事に責任をもつこと。

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯12(在籍児童数13)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	13
利用者家族総数(世帯)	12
共通評価項目による調査対象者数	12
共通評価項目による調査の有効回答者数	11
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	91.7

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」63.6%・「満足」18.2%の計81.8%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「食事」「戸外活動」「安全対策」「保護者との信頼関係」など全17問中15問で80～100%の高い支持を得ている。自由意見では「小規模園のためアットホームで、さまざまな先生方が対応し、子どももすべての先生が把握できるので安心しているのが伝わる。またクラブ活動や食育に力を入れ、ナス・キュウリ等を育ててクッキングをしたり、梅ジュースを作ったりしている」「園長の保育方針や先生方からも愛情を感じられ、個人の個性や成長にしっかりと合わせて、子どものことを考えて保育してくれるので満足している。先生方の連携がしっかりしており、どの先生に見てもらっても安心感があり、子どもが一度も保育園に行くのを嫌がらないことが親として一番安心で幸せだ」「先生たちがいつも明るく勉強熱心で大変信頼でき、子どものために行事やレクリエーションなど、プラスアルファの活動も積極的に行ってくれる」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては保護者の就労・負担への配慮、コロナ禍での活動制限、事務手続きに関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか	11	0	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「今年からクラブ活動も始まり、ますます楽しみだ」の1件であった。				
2. 保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
3. 【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、延長保育時の夕食の提供について、さらなる検討を望む声が1件見られる。				

4. 保育施設の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「毎日外に出て、散歩や公園に連れていってくれているのがとてもありがたい」「散歩の時にバッグを一人ひとり持ち、散歩を楽しんでいる」の2件が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	10	0	0	1
有効回答者10人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「昨年の緊急事態宣言期間中も柔軟に対応がなされていた」の1件があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「大きなケガも一度もなく、安心して預けられている」「消毒など丁寧にやってくれるので、親としては安心だ」の2件があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	6	2	3	0
「はい」が54.5%、「どちらともいえない」が18.2%、「いいえ」が27.3%となっている。 自由意見は3件で、行事の日程等における各家庭の就労等への配慮について、さらなる検討を望む声が寄せられるとともに、コロナ禍に伴う保護者参加の行事の中断について言及する声も見られた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育施設に信頼関係があるか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「いつも園での様子をしっかりと教えてくれる」の1件であった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	8	1	0	2
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。 自由意見は、「小規模保育園ということもあって室内に狭さを感じるものの、先生方が工夫して場の提供をしてくれている」の1件であった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	10	1	0	0
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。 自由意見は記入がなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	7	0	0	4
有効回答者7人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「子どもの気持ちを優先に寄り添ってくれていると感じる」の1件があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	10	0	0	1
有効回答者10人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	11	0	0	0
有効回答者11人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「その時その時で、目標などやできること・できないことをはっきり教えてくれる」の1件があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	9	0	0	2
有効回答者9人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は記入がなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政等)にも相談できることを伝えられているか	4	2	0	5
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が33.3%となっている。 自由意見は、「今のところ困ったことがない」の1件があった。				

I サービス提供のプロセス項目（サブカテゴリ1～3、5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、行政機関等相談先に関する情報の提供をしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>利用希望者等に対し、入園時の園の選択に資する情報発信に努めている</p> <p>地域の方や入園を検討している世帯に対して、園の取組や特色などの情報発信に努めている。ホームページでは保育理念や方針、目標などを掲載するとともに、その実践となる日常の散歩や遊びなどの様子について、写真を活用して入園後の生活がイメージしやすいよう、工夫をしている。また見学や保育所体験の利用を通じて、園のことをより深く知ってもらう大切な機会と位置付け、ホームページに地域子育て支援の実施スケジュールを掲載し、参加の促進を図っている。なお、来園者には園のパンフレットや子育て支援情報紙を配付している。</p> <p>行政の各種媒体や近隣施設との連携を通じ、園の概要やイベント等の情報提供をしている</p> <p>園が所在する区では、当園を含む小規模保育所等の所在地や連絡先、定員等の情報が掲載された「保育施設利用のご案内」があるほか、今年度から制作された「小規模保育所・事業所内保育所」に、園の保育に対する思いを添えて園の概要を掲載しており、これらは入園を検討・希望する方々へ提供されている。また地域の子育て支援情報紙は、同じ建物内にある児童館への設置や近隣のコンビニエンスストアでの掲示をするほか、散歩時に会う未就園世帯に対して、職員が直接配布するなど、より広く園を知ってもらうための広報活動に取り組んでいる。</p> <p>コロナ感染防止に配慮しながら見学を受け入れ、園の取組や保育の考えを伝えている</p> <p>入園直後の在園児への配慮のため、夏頃から見学の受け入れを開始しており、コロナ感染防止の観点から、一日1家庭として電話での予約を受け付けている。10時30分頃から午睡までの時間帯を推奨しつつ、希望者の都合に応じて日時を調整している。当日は保育者と子どもの関わり方や食事・トイレ介助などを見てもらい、園のパンフレットをもとに、しっかりと身体を動かし、お腹を空かせたうえで食への意欲・関心を高める日々の活動と園の考え方を説明している。入園が困難な場合は、区の冊子を渡し、空きのある小規模園や、区の窓口を紹介している。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>個別面談において入園にあたっての説明を行い、書面によって各種同意を確認している</p> <p>年度当初に入園予定の世帯に対しては、コロナ禍の現在において、入園にあたっての必要な説明を個人面談時に実施している。また落ち着いた雰囲気の中で保護者が入園前の説明を確認し、丁寧な面談での聴き取りが行えるよう、園で子どもを預かるという配慮も行っている。当日は「入園のしおり」をもとに、園の保育理念や方針・目標、園利用にあたっての各種の留意事項、SIDSや感染症といった健康面などを説明している。面談終了時には「重要事項同意書」「個人情報使用同意書」等の各種同意書への署名・押印によって入園に対する同意確認としている。</p> <p>保護者からの提出書類を参考とし、入園後の支援に必要な情報を面談にて確認している</p> <p>入園説明と同時に入園時の個別面談では、入園後の支援に必要な情報を確認している。「健康の記録」「児童票」「入園までの生活状況」などの保護者から提出される各種書類をもとに、担任、園長または主任が聴き取りを行い、子どもの生活リズム、健康や発達状態のほか、保護者の保育に対する意向を確認している。食物アレルギー等の個別の配慮が必要な場合は医師から指示の提出を依頼するほか、離乳食が必要な場合は専用の様式もとに詳細な状況を確認して入園後の支援に役立てている。</p> <p>入園当初には子どものストレス等に配慮し、利用終了後の関係継続を図っている</p> <p>入園直後には、各家庭の事情や子どもの様子に応じた期間で「慣らし保育」を行い、子どもの不安やストレスへの配慮に努めている。必要に応じて家庭で使用するタオル等の愛玩品の携行を受け入れており、個別の配慮が必要な場合は、保護者にも保育に同席してもらい保育者の関わり方を確認してもらっている。卒園後には夏祭りに卒園児を招待するほか、卒園児を受け入れてもらう連携園とは、2歳児が月1回交流を行っており、この際に卒園児と保育者が関わるなど、利用終了後の関係の継続に努めている。</p>			

サブカテゴリ3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもの発達の状況を把握・記録し、職員間で情報を共有している</p> <p>入園時には、健康・発達・生活リズム・食事の形状、保護者の就労状況等を把握・記録している。入園後の子どもの成長は、毎月、主な発達の現れをチェックリストを用いて確認するほか、子どもの全体的な姿や保育上参考となる事項を記述形式で記録をしている。園長・主任・副主任・担任で行うクラス会議において、子ども一人ひとりの状況や家庭への援助に必要な情報を共有し、会議の内容を踏まえて、クラス及び個別の保育計画案を策定している。毎月行われる職員会議においても、子ども全員について担当から報告を行われ、職員間で共有されている。</p> <p>子どもの状況を踏まえた根拠性のある保育の計画を策定し、実践につなげている</p> <p>年間指導計画は例年作成しているものをもとに実際の子どもの姿を踏まえて、必要事項の加除を行っている。月間指導計画は年間指導計画をもとに展開した計画となっており、年間指導計画で立案された内容のうち、月間指導計画に反映した項目については、反映月を年間指導計画内に記述して振り返っている。実践的な週の保育計画では、実践の根拠性を高めるべく、子どもに経験せたい内容・子どもが自ら学ぶ視点・想定される危険などを踏まえて、ねらいや保育士の配慮・環境構成を想定することとしている。</p> <p>保育の意図や実践から得られた子どもの成長を保護者に伝えている</p> <p>コロナ禍において安全を最優先として感染症対策を講じており、降園時の玄関での「密」を回避するために、保護者との対話時間が減少している現状を踏まえ、園からの発信物をより読みやすく、わかりやすいものとなるよう工夫を始めている。毎月の学年便りには、当月のねらいを記載し、翌月には「フォト新聞」に、実践の様子を写真を用いて紹介するだけでなく、保育活動によって得られた成長や体験についても併せて記載し、保育の意図や子どもの成長を保護者に伝えている。また個人面談は年3回、期間を設けて実施している。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和り取りする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どものプライバシーの保護や人権・羞恥心への配慮が行われている</p> <p>入園時に個人情報や写真利用に関する意向を確認している。許可を得ている子どもの写真についても、保護者に配信する際には、子どものプライバシーを考慮して、内容の適切性を確認している。外部と子どもの情報をやり取りする必要がある場合には、その都度保護者の確認をとるようにしている。子どもの人権の尊重、羞恥心への配慮として、着替えやおむつ替え等の援助の際には、他からの視界を遮るほか、全裸にしないようにしている。また屋上で水遊びを行う際にも、周囲の視界を確認しつつ、可能な配慮をしている。</p> <p>保護者の意向や子どもの人権に配慮した保育の実践に努めている</p> <p>入園時や入園後の個別面談のほか、日々の送迎時の会話などから、保護者の保育に対する意向を把握し、園としての対応が可能な範囲内で子どもの支援に活かしている。職員が一人ひとりの子どもの気持ちを傷つけないよう、子どもに対する職員の言動や配慮事項を手引書に定め、園内に掲示している。また、保育士団体が作成した人権擁護に関するチェックシートを活用し、自らの保育中の言動について定期的な振り返りを行うほか、年1回の園長との面談の際にはこれを踏まえて職員を指導するなど、子どもの人権に配慮した保育実践を促している。</p> <p>虐待防止に関する手順が定められ、園内研修で見識を深めている</p> <p>虐待の防止に向け、早期発見から通告までの手順等を定めた各手引書が整備され、子どもの着替え時の視診を職員が行って早期発見に努めている。また疑われる事例が発生した場合は、区の子育て支援課に通告する流れとなっている。月1回行う職員会議では、年間計画に基づいた園内研修が行われており、虐待防止に関する理解を深める機会を年2回設けている。可能な場合は外部講師を依頼するほか、担当の職員が説明するなどして、虐待防止に対する組織内での知識を深め、意識向上を図っている。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>各種の手引書は適宜見直しを図り、掲示や配付にて職員が確認できるようにしている</p> <p>不審者対策・感染症予防・虐待防止・アレルギー・嘔吐処理・痙攣時などの対応を定めた手順書を危機管理マニュアルとして綴るほか、衛生管理に関わる手引書を整備している。危機管理マニュアルについては、職員に配付するとともに、重要な手順書はクラスごとに設置したり、職員が事務作業するエリアに掲示したりして、常時職員が活用できるようにしている。各種業務の手順等は年2回、職員の意見を確認しながら見直す機会を設け、必要に応じて手引書類の更新を行っている。</p> <p>園内研修による各種の研鑽と振り返りなど、業務手順の確認と定着に努めている</p> <p>各種手引書で定められた手順について、実践での定着に向け、毎月の職員会議で園内研修の場を設け、担当職員が講師となって各種の業務手順の確認を計画的に行っている。嘔吐処理や食物アレルギーによるアナフィラキシーショックなどの緊急時の対応といった実践的な訓練が行われるほか、消防署による上級救命講習を定期的に受講している。また保育士団体が作成した人権擁護に関するチェックシートを使用し、各職員が子どもとの関わりを振り返るとともに、園長面談時の資料として他者からの視点を踏まえた助言・指導に活用されている。</p> <p>職員の意見や保護者の意向を踏まえ、業務やサービスの改善に取り組んでいる</p> <p>保育や各種業務、手引書については、職員の意見を踏まえ、見直しを行っている。また職員が外部研修で得た知見を活かした改善提案を行っており、保護者との個別面談を2回から3回に増やしたり、保育のねらいと連動した「フォト新聞」を発行したりするなど、子どもや保育に関する情報発信の充実に努めている。保護者が参加する行事後にはアンケートを実施し、保護者全体の意向を把握している。この内容についてはその後の行事等の改善に活かすほか、日々の保護者との会話を通じて得た情報をもとにサービスの改善につながるよう、心がけている。</p>		

II サービスの実施項目(サブカテゴリー4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	38 / 38
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児が利用している保育施設のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりに対する成長や情緒の状況を把握し、職員間や家庭と共有している</p> <p>個人別保育計画では、各項目でのねらいを立て、実践につなげている。子どもの全体的な姿を把握できるよう、食事・健康・学びに関するねらいをそれぞれに立てており、振り返りはねらいに対する子どもの姿、そこに至るまでの保育士の配慮や工夫、次期への見通しなどを記載することとなっている。個別日誌には子どもの様子と保育士の対応を記載し、毎月のクラス会議・職員会議において、個別の状況を職員間で伝え合う機会が設けられている。また日々の連絡帳や個人面談などを通じて保護者とも子どもの様子を伝え合っている。</p> <p>日々の生活や遊びを通じて、子どもが経験を重ねられる環境構成の工夫に努めている</p> <p>子どもの身体的な発達や理解、興味関心の現状と芽生え等を踏まえて、自ら遊びを選択して、玩具や絵本などを手に取れるような環境づくりを心がけており、必要に応じて手作りの玩具を用意したり、絵本を入れ替えたりしている。保育室には、子どもが触ってはいけないものを置かず、自由な好奇心や探索心を育めるようにしている。また子どもが集中しているときには子どもの世界を尊重して見守り、子どもと目が合うなど、子どもが保育者の反応を求めているときには、適宜応じながら、遊びの充実や興味の広がりやさらに促せるよう心がけている。</p> <p>子どもがトラブルの中から、他人を意識し関わり方を学べるよう援助に努めている</p> <p>朝夕の時間帯では、子どもたちは異年齢で過ごしており、年上児が年下児を気かけたり、年上児の遊びに興味を示す年下児の姿が見られたりしている。子ども同士のトラブルでは、子どもがその関わりから学ぶことが多くあるとの認識のもと、大人が先回りしすぎて、経験を奪うのではなく、子どものコミュニケーション能力の現状や場面を踏まえ、代弁したり、仲裁したりするなどの援助に努めている。ケガにつながるような状況では、できる限り事前に止めて、双方の気持ちを伝えるなど、関わり方を教えるようにしている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息・午睡等の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には視診や伝達事項を記録し、降園時には一日の様子を保護者に伝えている 登園時には、子どもを視診して、怪我の有無や体調の状況を確認し、「引継ぎノート」に記録するほか、保護者から伝え受けた内容についても、この記録簿に書き込むこととなっている。また遅番等シフト勤務の職員も就業前には連絡帳と引継ぎノートの内容を確認することとなっている。午前中の活動内容や健康状況は、連絡帳に記載して保護者に伝えている。午睡後から夕刻の子どもの情報は、職員間で口頭によって伝え合うほか、保護者への伝達事項がある場合には、引継ぎノートを活用して伝え漏れがないようにしている。</p> <p>基本的な生活習慣の自立に向け、子どもの発達や意欲を踏まえた援助に努めている 基本的な生活習慣の自立に向け、子どもの身体的な発達の状況を踏まえて援助するよう心がけており、感覚を言葉にして伝えるようにするほか、子どもの反応に応えながら、目を合わせて援助することを大切にしている。排せつや手洗いの援助の際には、清潔になる心地よさを言葉で伝えるようにしたり、着替えの際には次の動作を伝えたりすることで、自発性を促しながら身につけられるよう援助している。自分から行おうとする姿が見られた場合には、さりげなく手伝って、できた喜びを得られるようにしている。また家庭での取組状況の把握にも努めている。</p> <p>休息は子どもの状況に応じて取れるようにし、活動のバランスに配慮している 睡眠は子どもの発達や生活リズムなどに応じて取れるようにしており、午前寝や夕寝にも対応している。睡眠時には保育者は側について、安心して寝られるように、さすったり、トントンしたりするほか、状況によってはハミングの子守唄等を歌っている。子どもの心身の疲労と疲労からくる事故や体調不良を防ぐため、遊びの途中には、水分補給などを挟んだりして、適宜休憩を入れるようにしている。また主活動終了後にも絵本の読み聞かせなど静かな活動を行ったうえで食事に向かうなど、活動の「動」と「静」のバランスを考慮している。</p>		

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

コミュニケーション力の育みに向け、関わる楽しさを経験できるように援助している

コミュニケーション力の育みに向け、日々のおむつ替えや食事など生活面の援助のほか、さまざまな遊びを通じた保育者との関わりから、楽しさを経験できるようにしている。平行遊びの芽が見られる頃には、互いの存在を伝えたり、保育士を仲介して遊びが交わるよう援助している。2歳児からは、互いの存在や役割を意識できるよう、当番活動を採り入れており、みんなで同じことに取り組んでいることや役割を全うする喜びを感じられるようにしている。また手洗い場には、並ぶ場所に足形を貼るなど、公のルールに触れられるようにしている。

制作や各種のクラブ活動などの多様な活動に取り組み、子どもたちの感性を育てている

制作は季節にあったものをテーマに、道具の使い方や表現方法を体験できるよう年齢相応の内容で取り組んでいる。「チアクラブ」は音楽に親しみながら、身体模写や柔軟体操を通じ、身体の柔軟性の向上や身体表現する楽しさを味わうことを目的として行われている。「運動クラブ」はマット運動や鉄棒等を体験したり、ボール遊びを楽しんだりするとともに、体幹を鍛えたり、身体の動かし方を身につけたりしている。「英語クラブ」では、簡単な挨拶・単語に触れ、英語の歌を聴きながらダンスをしたりして楽しんでいる。その他にはリズム遊びも採り入れている。

自然の不思議や季節を感じられるよう、戸外活動や感触遊びに取り組んでいる

散歩は近隣の公園に出掛け、集団遊びをしたり、遊具で楽しんだりするなど、目的に合わせて公園を変えている。図鑑を持参し、虫や植物を観察したり、手作りの散歩バッグを持って自然物を拾って楽しんだりもしている。保育者は子どもたちの自由な気づきや眩きを聞き逃さないように心がけ、みんなで不思議や喜びを共有・共感できるようにしている。自然物から季節を感じ、興味が広がるようように、見つけたもの名前を教えたり、子どもに問いかけたりしている。園内においても季節を感じる水遊びなどの感触遊びに取り組んでいる。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は子どもの発達・興味を踏まえた内容とし、その過程を保護者に伝えている</p> <p>行事に向けた取組では、子どもの日頃の興味・関心や心身の発達状況を踏まえて内容を決定している。例年、夏祭り・運動会・発表会は、保護者に子どもの成長を伝え、喜びを共有する機会になっているため、行事の際の発表は、行事のためだけに行うのではなく、日々の生活や遊びから発展した内容を発表の形にすることを大切にしている。行事の取組の過程は、事前に書面を発行して、活動の内容や見所などを伝えたり、「フォト新聞」に掲載したりしている。行事後にはアンケートを実施し、集められた意見を次に活用するようにしている。</p> <p>季節等の雰囲気味わい、子どもたちで発表・協力する内容を行事に採り入れている</p> <p>今年度の夏祭りでは、制作した神輿を担いで園内を練り歩き、保育の中で楽しんできたものを盆踊りとして取り組んでいる。またボール入れやワニ叩きなどのゲームコーナー、うちわとお面の制作コーナーを設けて、祭りの雰囲気を楽しんでいる。昨年運動会では、体操・遊戯・かけっこなどに取り組む、身体的な成長を保護者に見せている。集団への意識が芽生えた2歳児はスカーフ遊びから発展し、パラバルーンに挑戦している。少しずつポーズを覚えながら、演技を作り上げており、みんなで一つのことに取り組む精神的な成長を保護者に披露している。</p> <p>発表会は子どもたちの日々の遊びから発展させた内容で取り組んでいる</p> <p>昨年の発表会では、0歳児は子どもたちが興味関心があることや得意なことを発表している。1歳児は、日頃の遊びの中で見られる「入れて」「いいよ」のやりとりの姿や、絵本の内容から、劇遊びに取り組んでおり、みんなで掛け声を楽しんでいる。2歳児は忍者になりきって、ダンスを踊るほか、簡単なセリフに挑戦している。子どもの様子に合わせて、意欲を引き出せるよう、練習の過程では、日頃の保育の中の遊びに、なりきり遊びの要素を採り入れながら取り組んでいる。今年度も日々の子どもの遊びと成長を発表の形にして披露する予定となっている。</p>		

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長くなる子どもたちの健康面・情緒面への配慮に努めている</p> <p>健康面への配慮として、子どもの体調の把握や、職員間での情報共有に努めている。子どもの状況に応じて活動内容を変更したり、活動の強弱のバランスを取るほか、水分補給をこまめに行い、身体を横にしてゆっくり休めるようにしている。また子どもたちの情緒面への配慮にも努めており、降園する子どもの姿を見て、寂しくなったり、不安になる子どもが落ち着けるようスキンシップを図ったりするほか、好きなもので遊べるよう環境を整えたりしている。また小規模園の特性を活かし、全ての職員が全ての子どもたちの状況を把握できるよう情報共有に努めている。</p>		

6 評価項目6 子どもが安全な環境のもと食事を楽しめるよう配慮している		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが安全に食事をとれるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>子ども一人ひとりの状況に応じた食事の援助に努めている</p> <p>個人別指導計画は、食事に関するねらいを含めて作成することとなっている。離乳食は、入園時に段階・既食食材などを確認し、保護者との連携を図りながら、子どもの状況に応じて無理のないように進めている。食事の介助は、好き嫌いや食具の使用状況など個々の特性を踏まえて丁寧に行えるよう、子ども・職員の着座の位置の工夫に努めている。子どもの口に匙を運ぶ際には、これから何を食べるのかを伝えたり、咀嚼を擬音や手振りで表現するほか、「おいしいね」等の美味しさを共有する言葉がけを行うよう心がけている。</p> <p>献立はバランスや食の経験を考慮して立案し、喫食状況は職員間で共有している</p> <p>旬の食材を用いた、バランスの取れた献立を作成し、2週間で1サイクルのメニューとすることで、同じ料理を複数回経験できるようにしている。行事食のほか、3月の最終日には、最後の給食となる2歳児クラスの子どもたちが好きなメニューを提供する「リクエストメニュー」を楽しんでいる。献立は管理栄養士・園長・主任・副主任・担任が話し合っており、メニューだけでなく、年齢別の留意点のほか、季節の食材や誤飲の危険性のある食材に関する確認、クッキングについても話し合っている。日々の喫食状況は、保育士と調理担当で確認している。</p> <p>栽培・収穫・調理体験や食育集会の実施と、アレルギー対応の確認をしている</p> <p>食育として、夏野菜やジャガイモの栽培を経験している。土や種芋に触れたり、草むしり・水遣りを行って生長を見守り、収穫後は、ジャガイモを潰して、混ぜるなどの調理体験につなげている。また食育集会を行っており、7月は野菜のシルエットクイズや野菜に触れる体験を楽しんでおり、今後は噛むことの大切さや栄養素についても伝える予定としている。アレルギー対策として、園内研修を行い、マニュアルの確認やアナフィラキシー症状補助治療薬の使い方を学び、即時対応・連絡搬送・施設長不在時等のシミュレーションの確認を行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p>子ども自らがケガや病気を予防できるよう、その都度の意識づけに取り組んでいる</p> <p>0～2歳児の園の特性を踏まえ、子どもが理解しやすいよう、年齢に応じた方法でケガ防止や病気の予防に向けた取組を行っている。年間計画に沿って、イラストやクイズ、ペープサート(紙人形劇)などを活用し、手洗い・うがいの方法やその大切さを職員が説明している。水遊びの際には、「プール周辺を走らないこと」「プールの中に入らないこと」を伝えるほか、進級時には新しいクラスで安全に過ごすための注意点、遊びや散歩の前には交通ルールや約束ごとなどをそれぞれ担任から伝えるなど、子ども自身で危険回避を意識できるよう支援している。</p> <p>医師による健診や指示に基づく対策を行い、子どもの健康面の支援に努めている</p> <p>嘱託医による健康診断を年2回、歯科検診を年1回それぞれ行い、定期的に子どもの健康状態を把握するほか、日々の登園時には職員が子どもの状態を確認するとともに、保護者からの伝達や連絡帳の確認などで子どもの健康状態を把握し、その日の体調に応じた活動や食事の配慮に努めている。食物アレルギーや特定の疾患等の個別配慮が必要な場合は、医師の指示書等に基づいた支援を行っている。毎月1回の園内研修では、子どもの体調変化等の対応に備え、保健や衛生などに関わる手順の確認に取り組んでいる。</p> <p>SIDSへの対策や健康の維持管理に向け、保護者へ保健情報の提供を行っている</p> <p>健康面に関して保護者と連携しながら子どもの支援ができるよう、さまざまな情報の提供に努めている。「入園のしおり」に感染症並びに体調不良時の対応、SIDSの留意点等の情報を掲載し、入園時または保護者会で説明するとともに、園内においてはSIDSの対策として、年齢に応じた間隔で職員が呼吸等の確認を行っている。また保健便りを通じて、季節に応じて流行しやすい感染症や健康維持の留意事項などを保護者へ情報提供を行っている。園内で感染症が発生した際には、その状況を保護者に発信し、蔓延防止に努めている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、保育施設の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者と子どもの様子や育ちを共有し、就労等への支援も行っている</p> <p>降園時には担任だけでなく、他の職員も積極的に保護者に話しかけ、子どものその日の様子を知らせたり、個々の良いところや課題なども伝えたりするほか、連絡帳等で寄せられた相談にも迅速に回答することを心がけている。希望制の個人面談は、今年度から年3回とし、年度末に子どもの成長の振り返りや今後の見通しを伝えるなど、保護者と子どもの成長の喜びをより丁寧に共有できるよう、工夫している。また保護者が参加する行事は主に土・日曜日に設定するほか、急な残業等による延長保育の利用に柔軟に対応するなど、働く保護者の支援にも努めている。</p> <p>保育士体験や懇談会等を通じ、保護者の子どもの発達の理解や子育て支援につなげている</p> <p>入園式後と生活発表会後にそれぞれ設けるクラス別保護者懇談会では、各年齢での年間を通じた成長と発達の見通しを、担任が口頭で伝えることとしている。また飲談の場も設け、保護者同士の交流の機会とするとともに、育児の悩みに対する他の保護者からのアドバイスを得られるようにしている。保護者の都合に応じて参加できる保育士体験(年2回)のほか、現在コロナ禍に伴い実施を控えているが、保育士と子どもとの関わり方や声かけなどを見てもらい保育参観を通じて、職員や保育への理解と、保護者の子育ての一助となるようにしている。</p> <p>園の方針や取組への理解と保護者との信頼関係の形成に向け、多様な工夫に努めている</p> <p>週単位の計画と実績を掲示して、散歩の様子を伝えるほか、毎月発行する各種便りには掲示や配付を行うなど、クラスの様子や園の取組などを保護者に伝わるよう発信する内容も工夫している。年2回のクラス別保護者懇談会では、園や各クラスの年度の方針等を説明し、年2回設ける保育士体験等では、試食会で給食を体験してもらうことで、子どもたちの園生活の一端が伝わるようにしている。またさまざまな機会を通じて寄せられる保護者の要望・意見等を改善に活かすなど、安心して子どもを預けられるよう信頼関係の形成に努めている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育施設の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>近隣保育園との交流や実習生の受け入れなど、さまざまな人との関わりが持たれている</p> <p>例年では、連携施設だけでなく、近隣保育園との交流が持たれており、招待を受けて行事に参加したりしている。また日々の散歩では、近隣の公園を利用しており、すれ違う住民と挨拶を交わすなど、社会性を育む機会にもなっている。また実習生や中学生の職場体験、小学生のボランティアなどを受け入れており、職員以外の人と触れ合う機会が設けられている。これらの機会は、感染症対策のため、実施を見合わせているものもあるが、地域資源を活用した活動や多様な人との関わりの機会は、感染症対策を講じた上で今後も設けていきたいと考えている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	8/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		<input type="radio"/> 非該当
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		<input type="radio"/> 非該当
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			
		評点(〇〇〇〇●)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>苦情解決制度を整え、個別・全体での意見等の把握とフィードバックを行っている 苦情解決制度を整備し、入園時の説明と園内での掲示によって保護者への周知を図っている。保護者からの苦情・要望等は、園内に設置した意見箱で収集するほか、送迎時の保護者との会話等を通じて把握しており、園内での検討を経て、速やかに回答する仕組みとなっている。また保護者全体の意向の把握については、保護者が参加する行事後にはアンケートを実施している。寄せられた意見は集約して書面にまとめており、次年度の企画の検討に寄せられた意見等を活かしてゆく園の方針を添え、園内の掲示にて保護者へ報告している。</p> <p>虐待防止や人権擁護に関する手引きの整備と各職員の振り返りを行っている 「虐待防止規定」を職員に配付するほか、事務作業するエリアに保育における職員の言動や配慮事項を定めた手引を掲示している。また各職員が保育士団体作成の「人権擁護のためのセルフチェックシート」による振り返りを3か月ごとに行うとともに、園長との面談時にこの結果をもとに職員の指導を行っている。虐待の早期発見のポイント等を示した「子どもを虐待から守る5か条」を職員の目に触れるよう園内に掲示しており、朝の受け入れや子どもの着替えなど日々の生活の折々で視診を行い、虐待の早期発見に努めている。</p> <p>各種リスクを想定した訓練・研修や、事故・ケガの再発防止に取り組んでいる 感染症・食物アレルギー・痙攣・虐待防止などの対応手順を危機管理マニュアルに定めており、毎月の園内研修において各種手順の確認や実践的な訓練を行っている。また職員は消防署による上級救命訓練を年1回受講するほか、毎月の火災や地震を想定した避難訓練と年1回の不審者侵入を想定した訓練を行うなど、万が一の事態に備えている。また子どもがケガをして病院を受診した際や、事故・ケガに至らなかった場合は、事故報告書や「ヒヤリ・ハット」の様式にそれぞれ書き分け、再発防止に向けて要因の分析と傾向の把握をしている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	園の取組への保護者の理解が深まるよう、情報発信の工夫に取り組んでいる	
内容①	「目にしたら読みたくなる手紙」を今年度の目標とし、クラス便りや「フォト新聞」に関する内容を工夫し、保護者の信頼関係の向上に取り組んでいる。今年度から毎月発行している「フォト新聞」では、クラス便りに掲載した月のねらいに対する振り返りのほか、食育活動や保健衛生の取組等について写真を交えながら報告している。また園便り「わかば」では写真をより多く用い、大切にしている保育方針や遊びを通した学びなどを伝えるとともに、職員の気づき・提案を踏まえた工夫や危機管理の意識向上に向けた職員研鑽などの様子を発信している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもたちが興味・関心を広げ、多様な体験ができる活動を行っている	
内容②	子どもが遊びや生活を通じて多くのことを学ぶことができるよう、さまざまな活動を採用している。ままごと等のなりきりややり取りを楽しむ遊び、水遊びや氷・寒天を用いた感触遊び、制作やリズム遊びなどの表現活動、散歩等の戸外活動が行われている。また今年度はクラブ活動を開始しており、「チアクラブ」では、音楽に合わせて身体表現を楽しみ、「運動クラブ」では、マット運動や鉄棒、ボール遊び等を通じて身体の使い方を身につけて体幹を鍛えている。また「英語クラブ」では、簡単な挨拶や英語の歌を聴きながらダンスをしたりして楽しんでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	利用者保護(3)	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	子どもの安全を確保するための訓練や研修を年間を通じて行っている	
内容③	安全確保への取組に注力しており、さまざまなテーマを設定して園内研修を行い、職員間の共通認識を高めるとともに、基本的な手順や知識の定着に取り組んでいる。現状では食物アレルギー児は在籍していないものの、対応が必要となる場合のために、手順の確認や、アナフィラキシー症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療剤の使い方を学んでいる。その他にも嘔吐処理・SIDS対策・散歩経路の確認・状況や場面をさまざまに行う避難訓練など、緊急即時対応が必要な事項に関する訓練や研修を年間を通じて行っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日々の遊びや食育等の活動、保健教育や新たに開始したクラブ活動を通じて、子どもの丈夫な身体づくりに取り組んでいる
	内容	天候に支障がない限り午前中は園周辺を散歩したり、夏季には水遊びをしたりするなど、身体を思いきり動かして遊ぶことで子どもの運動機能の発達を促すとともに、空腹感を覚えて給食をおいしく食べることを大切にしている。畑活動やクッキング等の食育活動によって食への関心を高めている。また今年度から開始した希望制のクラブ活動「チアクラブ」や「運動クラブ」の遊びなどで楽しく身体を動かすとともに、保健教育を通じて、歯磨きや衛生の大切さを教えるなど、丈夫な身体づくりに取り組み、健やかな子どもの育ちへとつなげている。
2	タイトル	子どもの発達を職員間で共有する機会をさまざまに設けるとともに、家庭とも面談を行って、一人ひとりに応じた保育の実践につなげている
	内容	子どもの発達状況は発達の現れに関するチェックリストや保護者との話し合いなどを通じて把握し、記録している。子どもの多様な成長の姿を複数の職員の視点から把握することに注力しており、個人別指導計画や保育計画は、担任と主任保育士が話し合いながら、子どもの特性や成長の見通しなどに関する考察をすり合わせながら立案している。職員会議では、担当保育士が、子どもに関する報告を行っており、職員全員で全ての子どもの状況を把握できるようにしている。また保護者との面談の機会を年3回設けるなど、保護者との理解共有にも努めている。
3	タイトル	子どもの興味・関心や発達課題を踏まえた環境構成の工夫に取り組み、子どもの好奇心・探究心・身辺の自立を促している
	内容	上段の通り、子どもの発達の状況を職員間・保護者と共有することで、子どもの現在の興味・関心や成長の見通しを把握しており、環境は必要に応じて、玩具や絵本の内容を変えたりしている。玩具については、指先の使い方や身辺自立に必要な動作などの発達課題に応じて、手作りものを用意している。遊び方が変わってくる様子を踏まえて、ままごとキッチンやカーペットなどを用いて、コーナーの場所や広さを工夫している。また子どもの好奇心・探索心を大切に考えており、保育スペースには、子どもが触ってはいけないものは置かないこととしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	サービスの質を高めるさまざまな取組を通じた、職員のモチベーションやチームワークのさらなる向上に期待が寄せられる
	内容	サービスの質を高めるさまざまな取組が行われている。保育計画の策定時には、主任保育士からのOJTが行われている。職員の個人別の育成活動として、毎月目標を立て振り返りが行われており、主任保育士が指導と助言にあっている。これらの活動は、職員の質の向上への意識が高く、活発に行われているがゆえに、課題の抽出とそれへの対策や助言に比重が傾きがちになる現状をリーダー層は把握しており、職員一人ひとりの特性を踏まえた称賛を通じた、モチベーションやチームワークの向上を今後の課題と考えている。さらなる活動の展開に期待したい。
2	タイトル	社会資源としての役割を全し、地域の中で必要とされる園であるための、情報発信の工夫や地域資源の活用などの今後に期待が寄せられる
	内容	社会資源としての役割を全し、地域の中で必要とされる園であるための取組がさまざまに行われている。地域の子育て世帯に向けた「おひさまタイム」では、保育室で園の玩具を使って遊ぶ機会を設けるほか、水遊び・ベビーマッサージ・ベビーヨガなどを企画している。また保育内容を高めるため、今年度から「クラブ活動」を保育に採り入れている。これらの活動をさらに充実させるためには、園の存在や保育や子育て支援事業の内容を地域の住民に知ってもらう必要があると考えられる。情報発信の工夫や地域資源の活用など、今後活動に期待が寄せられる。
3	タイトル	園内研修・避難訓練等の危機管理への取組をさらに進め、緊急事態後の対応を想定した事業継続計画の策定についても検討されたい
	内容	子どもの安全を確保するための活動が行われており、危機管理や即時対応が必要となる事項に関する園内研修を行うほか、マニュアルの整備等の標準化への取組や、多様な想定で行われる避難訓練を行っている。また保育の現場における情報共有の即時性の確保と、重要度の判断に関する職員間の認識共有についても、課題意識を持って改善に取り組んでいる。今後はこれらの危機管理への取組をさらに進め、自然災害や情報漏洩、感染症拡大など、緊急事態後の対応を想定した事業継続計画の策定を視野に入れた、情報収集・現状の把握等にも取り組まれたい。